

開催レポート

イベント名	新年会 2026
開催日	2026 年 1 月 31 日(土)11:45～15:00
場 所	日立目白クラブ
会 費	会場：8,000 円/講演会録画視聴：1,000 円
内 容	基調講演、懇親会
参加者	48 名

恒例のキャリア研究会新年会

今年も、恒例のキャリア研究会の新年会が日立目白クラブで開催されました。

少し遅めの開催となりましたが、澄んだ空気と晴れわたる空のもと、来場された皆さんの笑顔は華やいで、新年に相応しい一日となりました。



まずは野木会長より、新年の挨拶がありました。

「今年の目標は馬のように働いて働いて働いて」と、どこかで聞いたようなフレーズに「美味しいものを食べて食べて食べて、お酒も飲んで飲んで飲んで、ガハハと笑って笑って笑って参ります！」が続き、会場は笑い拍手に包まれ、新年会がスタート。

続いて、講演会が開催されました。

講演「ビジネスの真ん中に花の心を届ける」

今回の講演は「ビジネスの真ん中に花の心を届ける」。

講師は山崎繭加（やまざきまゆか）さんです。

山崎さんはマッキンゼー・アンド・カンパニー、東京大学助手を経て、2006 年から 10 年間ハーバード・ビジネス・スクール (HBS) に勤務。主に HBS で使用される日本の企業、経済、ビジネスリー



キャリア研究会

Career Research Association

ダーに関するケースを作成され、日本でのフィールド授業の企画運営に従事されました。

2017年に華道家として独立。「いけばなの叡智を、いまを生きる力に」を理念とする IKERU を主宰。同時に DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー特任編集委員、株式会社良品計画を含む上場企業3社の社外取締役などを務められています。

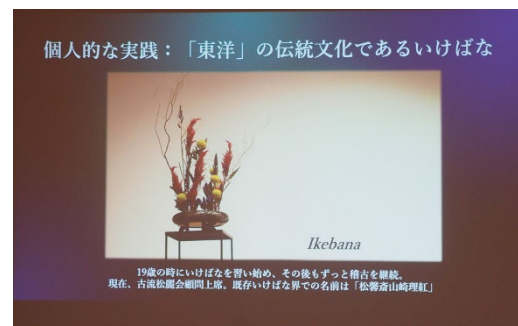
2016年に出版された山崎さんの著書「ハーバードはなぜ日本の東北で学ぶのか」（ダイヤモンド社）のあとがきには、「自分の人生のミッションは自分がいなければつながらない世界をつなげることで学びの場を創ること」、そして「HBSを辞め、“いけばな”をこれまでにない形で社会に広める活動に従事したい」とありました。

今回の講演では、このミッションがどのような経緯で実践されたのかについても伺うことができました。

西洋のビジネス経営と東洋の伝統文化の融合

大学時代からいけばなを続けてきたという山崎さん。西洋（おもにアメリカ）の経営ビジネスに携わる傍ら、プライベートでは週末、いけばなに癒されたり英気を養ってきたとのこと。

全く別もので、交わらないと思っていた西洋のビジネス経営と東洋の伝統文化が、この15年程の間に、自身の中でも、また世界の考え方においても、徐々に近づき、今では一体となっているといいます。



いけばなで学んだこと



いけばなを始めて山崎さんがまず習ったことは「花の声を聴く」ということ。

「花に聴き、その声に従っていけばおのずと花がいかされる」。これは今も心の指針となっているのだそうです。

いけばなには「型に合わせていける」という教えもあり、この二つの教えの間で戸惑ったそうですが、いけばなの歴史や時代とともに変化する様子などを知るうちに、「花をいける」（＝人が主で花が従）ではなく、

「花をいかす」(＝花が主で人が従)ことが本質であることに気付いたといいます。

自分の欲求やエゴはノイズとなり、花の言葉が聴こえなくなる。花と共に今にあり続け、無心で花と向き合うこと、そういう心の在り方が一番大切だという考えに行きついたのでそうです。

ビジネスといけばなの接点

経営ビジネスといけばなが融合することに気付いたきっかけは2つあるといいます。

1つは、HBSが教育改革後の2010年に発表したフレームワーク、「Knowing, Doing, Being」。これまではどれだけ知識(Knowing)を増やすかに注力してきたHBSが、これからは実践(Doing)とあり方(Being)とのバランスを取り戻すことを提示。この時山崎さんは「Knowingでは敵わないけれど、DoingとBeingはいけばなを通じて、一つの新しい道を提示できるかもしれない」と思いはじめたそうです。



もう1つは、同じ頃に発表されたのはじめて「Mindfulness(マインドフルネス)」というテーマです。

マインドフルネスの定義は「今ここにいる」という心の状態であり、このような心を持つ人の生産性は高く、よりクリエイティブでリーダーとしても有能であるという研究結果が経営学の世界において続々と発表されたのです。

「花をいかす」とは、今ここにあり続けるという実践。ならば、いけばなをマインドフルネスの一つのツールとして伝えられるのではないか。

こうして山崎さんの中で、ビジネスといけばながつながっていったようです。

IKERUの創設

2017年、「いけばなの叡智を、いまを生きる力に」を理念としたIKERUが創設されました。現在は、組織向けのリーダーシップ研修にいけばなを提供。日本企業やグローバル企業のリーダー育成プログラムや、海外のビジネススクールでは起業家プログラムとして採用されているそうです。

同時に個人向けのレッスンも実施されており、様々な人たちが集い、とてもいいコミュニティが育っているといえます。

軽井沢への移住とセンス・オブ・ワンダー

生まれも育ちも東京で、唯一2年ほど広島に住んでいたという山崎さんは、2020年に軽井沢へ移住されました。



山崎さんが大切にしている本として、レイチェル・カールソンの「センス・オブ・ワンダー」を挙げられました。「センス・オブ・ワンダー」は、日常生活の中に特別を見出してそこに神秘を感じる、そんな感性を指します。

ある日、ハーバード・ビジネス・レビューに「なぜあなたのセンス・オブ・ワンダーを守る必要があるのか」という論文が出たことに驚き調べると、この20年、アメリカにおいて日本語では「畏敬の念」などと訳される Awe やセンス・オブ・ワンダーを研究する流れがあることがわかります。

Awe の第一人者であるダッカー・ケルトナーの研究論文などを読むと、まさに自分が軽井沢で日々実践してきたことや大切に思ってきたセンス・オブ・ワンダーは、今のビジネスの世界でも重要だとあり、そこでいけばなの力を再認識したといえます。

ところで、ケルトナーが2023年に出版した「AWE」の翻訳は「私にしかできない！」と奮起した山崎さん。なんと、現在出版*に向けて最終校正中とのこと。近々、ダイヤモンド社から発売されるそうです。

実は、キャリア研究会のメンバーで以前幹事を務められた佐藤和子さんが、編集に携わっていたことがわかりました。ご縁を感じずにはられません。

*「AWE 心と人生を変える力 日常の神秘を科学する」（ダイヤモンド社）

Amazon で予約可能です

<https://www.amazon.co.jp/dp/4478118655>

軽井沢にすることで、季節ごとに咲く花や野草を摘んで、それをいけるようになったという山崎さんは、広島で花を摘んだり、木の実を拾ったりして遊んだ頃の自分に戻っていると

キャリア研究会

Career Research Association

言います。軽井沢では子どもたちも工夫しながら遊んだり、寺子屋をひらいて山崎さんが勉強などを教えたりもしているのだとか。

「自分がいなければつながらなかった世界をつなぎ、学びの場を創る」

このミッションを達成されたことで、聴講者の私たちにも学びを提供くださいました。

そして、他にも活躍の場を広げる山崎さんの動向から今後も目が離せません。

着席形式での懇親会

講演の後は、二階の撮影室で集合写真を撮影。

会場に戻ると森田純恵さんの乾杯の発声で懇親会がスタートしました。昨年に続き、着席形式での食事と歓談は、池田麗子さんの素敵なピアノ演奏とともに進んでいきました。名刺交換などもしつつ、ゆっくりとお話ができたとです。



後半は、今回初めて参加された方の自己紹介や、久しぶりに参加された方の近況報告、山梨から駆けつけてくださった井上晴美さんのプレゼント抽選などで大いに盛り上がりました。

約 3 時間にわたるキャリア研究会の新年会は、古川玲子さんの三本締めでお開きとなりました。



2026 年は 60 年に一度めぐってくる丙午（ひのえ・うま）。とてもエネルギーの強い年で、大きな飛躍や変化が期待できるようです。

キャリア研究会

Career Research Association

「いい女の集まり」キャリア研究会は、ますますパワーアップすること間違いなしですね。

今年もさまざまなセミナーやイベントを企画して、自分らしさを追求する女性たちにコミュニケーションの場を提供してまいります。

ご友人、知人、同僚とお誘いあわせの上、お気軽にご参加ください。

※キャリア研究会は8月から翌年7月までが会計年度です。

これまで新年会でご報告をしておりました活動内容や会計報告などは、新たに「総会（アニュアルミーティング）」で実施することとなりました。

昨年は9月に開催し、今年も同時期に開催予定となっております。

参加者の声 ※参加者アンケートより抜粋

- 第一線でご活躍中の皆様から大変力強いパワーを頂戴いたしました。本年も参加させていただきましたことにお礼申し上げます。ありがとうございました。もしも可能でしたら、ご講演の録画視聴が出来れば尚嬉しく存じます。ご検討いただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。
- いつも素敵な会を開催頂きありがとうございます。今回の講演の山崎さんのお話はとても感慨深いお話でした。特に、花の声を聞いてどう生かすか、ビジネスや今の人生においても今をどう生きるか、何をしたいのかを考えさせられたお話でした。まだ自分の中での答えは見つかっていませんが、何かが見つかりそうな気がしております。
- 新年会には久しぶりに参加された方も多く、会話がはずみました。着席形式だと人数は限られますが、ゆっくりお話ができていいですね。
講演は、まず山崎繭加さんの華々しいキャリアと華道家というプロフィールを見て、一体どんな内容が聴けるのかとても楽しみでしたが、聴講できて良かったです。お話の中に何度も出てきた「学んだ」「調べた」という言葉と、もがきつつも、きちんと裏付けをもって今にたどり着いたという自信とパワーを感じました。
AWEの日本語版が出版されたら是非読みたいと思います。

※所属及び役職は、開催当時のものです。（敬称略）

キャリア研究会についてはこちらから

<https://career-r.com/>